

2019 年度
第 154 回日商簿記検定目標
直前ヤマ当て模試
解答解説

2 級

(制限時間 2 時間)

資格★合格クレアル

2 級 ①

商業簿記

第1問 (仕訳1組につき4点×5箇所=20点)

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	売 掛 金	3,000,000	役 務 収 益	3,000,000
	役 務 原 価	2,220,000	仕 掛 品	2,220,000
2	定 期 預 金	5,552,800	定 期 預 金	5,500,000
	仮 払 法 人 税 等	13,200	受 取 利 息	66,000
3	支 払 利 息	12,000	当 座 預 金	78,000
	リ ー ス 債 務	66,000		
	減 価 償 却 費	66,000	リ ー ス 資 産 減 価 償 却 累 計 額	66,000
4	支 店	770,000	損 益	770,000
	損 益	770,000	本 店	770,000
5	現 金	1,500,000	買 掛 金	2,200,000
	売 掛 金	2,800,000	長 期 借 入 金	5,700,000
	建 物	8,500,000	資 本 金	3,000,000
	土 地	2,400,000	資 本 準 備 金	3,000,000
	の れ ん	700,000	そ の 他 資 本 剰 余 金	2,000,000

2 級 ②

商業簿記

第2問 (★1つにつき2点×10箇所=20点)

問1

売掛金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
5	1	前期繰越	6,800,000	5	18	諸口	★ 13,200,000
	12	売上	★ 13,200,000		23	売上	500,000
	22	売上	23,920,000		25	電子記録債権	★ 5,800,000
	27	為替差損益	312,000		31	次月繰越	24,732,000
			44,232,000				44,232,000

商品

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
5	1	前期繰越	10,000,000	5	6	買掛金	1,080,000
	4	諸口	5,800,000		12	売上原価	★ 6,640,000
	6	買掛金	★ 1,280,000		22	売上原価	★ 11,800,000
	16	諸口	7,780,000		31	棚卸減耗損	92,000
	23	売上原価	230,000		〃	商品評価損	246,000
					〃	次月繰越	★ 5,232,000
			25,090,000				25,090,000

問2

- ① 当月の売上高 ★ 36,620,000 円
- ② 当月の売上原価 ★ 18,548,000 円
- ③ 当月の為替差損益 ★ 312,000 円 (差損 ・ 差益)

2 級 ③

商業簿記

第3問 (1つにつき2点×10箇所=20点)

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	5,315,205						5,315,205	
受取手形	9,044,000						9,044,000	
売掛金	10,178,000		120,000				10,298,000	
繰越商品	2,602,000		2,480,000	2,699,680			2,382,320	
仮払法人税等	431,400			431,400				
仮払消費税	3,231,650		480	3,232,130				
貸倒引当金		26,000		264,130				290,130
建物	1,496,000						1,496,000	
備品	190,000						190,000	
建物減価償却累計額		524,000		6,960				530,960
備品減価償却累計額		116,500		1,500				118,000
商標権	280,000			40,000			240,000	
買掛金		9,148,000						9,148,000
仮受消費税		4,023,500	4,023,500					
未払費用		74,400	74,400	129,280				129,280
長期借入金		2,000,000						2,000,000
退職給付引当金		548,000		64,000				612,000
資本金		3,432,000						3,432,000
繰越利益剰余金		7,265,600						7,265,600
売上		40,236,000				40,236,000		
受取利息		4,000		2,775		6,775		
仕入	32,000,000		2,602,000	2,480,000	32,122,000			
給料	2,160,645		100,000	70,000	2,190,645			
水道光熱費	250,600		4,800	4,000	251,400			
通信費	62,000			10,200	51,800			
減価償却費	60,500		8,460		68,960			
支払利息	40,000		24,000		64,000			
為替差損益	56,000			120,000		64,000		
	67,398,000	67,398,000						
貸倒引当金繰入			264,130		264,130			
棚卸減耗損			60,000		60,000			
商品評価損			37,680		37,680			
貯蔵品			10,200				10,200	
退職給付費用			64,000		64,000			
未収収益			2,775				2,775	
商標権償却			40,000		40,000			
未払消費税				791,770				791,770
未払法人税等				1,128,600				1,128,600
法人税等			1,560,000		1,560,000			
当期純利益					3,532,160			3,532,160
			11,476,425	11,476,425	40,306,775	40,306,775	28,978,500	28,978,500

2 級 ④

工業簿記

第4問 (★1つにつき2点×10箇所=20点)

問1

仕掛品	
2/1 前月繰越 (★ 180,000)	2/28 製 品 (4,573,000)
2/28 直接材料費 (★ 2,512,000)	" 次月繰越 (★ 189,000)
" 直接労務費 (720,000)	
" 製造間接費 (★ 1,350,000)	
(4,762,000)	(4,762,000)

月次損益計算書

売上高		7,640,000
売上原価		
月初製品棚卸高	(★ 663,000)	
当月製品製造原価	(4,573,000)	
合 計	(5,236,000)	
月末製品棚卸高	(★ 1,918,000)	
差 引	(3,318,000)	
原価差異	(★ 334,000)	(3,652,000)
売上総利益		(3,988,000)
販売費及び一般管理費		(1,670,000)
営業利益		(★ 2,318,000)

問2

予算差異 = 109,000 円 (借方差異) ★

操業度差異 = 225,000 円 (借方差異) ★

※ ()内は借方差異か貸方差異かを示しなさい。

2 級 ⑤

工業簿記

第5問 (★1つにつき4点×5箇所=20点)

問1

★ 51,480,000	円
--------------	---

問2

16,400	円
--------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

問3

価格差異

★ 50,000	円
----------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

消費量差異

1,200,000	円
-----------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

問4

貸率差異

2,000	円
-------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

作業時間差異

★ 446,400	円
-----------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

問5

予算差異

16,000	円
--------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

能率差異

★ 259,200	円
-----------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

操業度差異

★ 442,800	円
-----------	---

 (借方差異・貸方差異) いずれかを○で囲むこと

日商簿記2級 直前ヤマ当て模試 解説

第1問 仕訳問題 (単位: 円) 目標時間: 15分

指定された勘定科目を正確に使用する点に注意すること、1つ1つの基本に立ち返ることを意識していただきたい。

1. 役務収益および役務原価

(借)	売	掛	金	3,000,000	(貸)	役	務	収	益	3,000,000
(借)	役	務	原	価	2,220,000 (*)	(貸)	仕	掛	品	2,220,000

* 給料 2,100,000 + 出張旅費 120,000 = 2,220,000

2. 定期預金の更新

源泉所得税は仮払法人税等勘定を用いて処理する。

(借)	定	期	預	金	5,552,800 (*3)	(貸)	定	期	預	金	5,500,000
	仮	払	法	人	税	等		受	取	利	息
					13,200 (*2)						66,000 (*1)

*1 $5,500,000 \times 1.2\% = 66,000$

*2 $66,000 \times 20\% = 13,200$

*3 源泉所得税控除後の利息を加えた金額が新たな定期預金となる。

$5,500,000 + (\text{受取利息 } 66,000 - \text{源泉所得税 } 13,200) = 5,552,800$

3. リース取引 (ファイナンス・リース取引、利子抜き法)

リース料に含まれている利息について、「每期均等額を費用として処理する」との指示により、利子抜き法による処理を行う。

(1) リース取引の開始に伴う会計処理

当期首 (X3年4月1日) において、次のような会計処理が行われていた。

(借)	リ	ー	ス	資	産	330,000 (*1)	(貸)	リ	ー	ス	債	務	330,000
-----	---	---	---	---	---	--------------	-----	---	---	---	---	---	---------

*1 見積現金購入価額

(2) リース料の支払い

(借)	支	払	利	息	12,000 (*2)	(貸)	当	座	預	金	78,000
	リ	ー	ス	債	務	66,000 (*3)					

*2 $(\text{リース料総額 } 390,000 - \text{リース債務計上額 } 330,000) \div 5 \text{年} = 12,000$

*3 $78,000 - 12,000 = 66,000$

(3) リース資産の減価償却

(借)	減	価	償	却	費	66,000 (*4)	(貸)	リ	ー	ス	資	産	減	価	償	却	累	計	額	66,000
-----	---	---	---	---	---	-------------	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--------

*4 $\text{リース資産 } 330,000 \div 5 \text{年} = 66,000$

4. 本支店会計 (支店純損益の振替)

全社的な当期純利益を本店側の帳簿で把握するために、支店側の損益勘定によって把握された支店の当期純利益を、本店側の損益勘定に振り替える。

(1) 本店側の仕訳

(借)	支	店	770,000	(貸)	損	益	770,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---------

(2) 支店側の仕訳

(借)	損	益	770,000	(貸)	本	店	770,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---------

5. 吸収合併

(借) 現	金	1,500,000 (*1)	(貸) 買	掛	金	2,200,000 (*1)						
売	掛	金	2,800,000 (*1)	長	期	借	入	金	5,700,000 (*1)			
建	物	8,500,000 (*1)	資	本	金	3,000,000						
土	地	2,400,000 (*1)	資	本	準	備	金	3,000,000				
の	れ	ん	700,000 (*3)	そ	の	他	資	本	剰	余	金	2,000,000 (*2)

*1 時価

*2 対価として交付した株式の時価：@4,000×2,000株=8,000,000

8,000,000－資本金 3,000,000－資本準備金 3,000,000=2,000,000

*3 受入れた資産と負債の差額：1,500,000+2,800,000+8,500,000+2,400,000－2,200,000－5,700,000
=7,300,000

8,000,000－7,300,000=700,000

第2問 商品売買取引に係る勘定記入など（単位：円） 目標時間：30分

各商品の払出計算（下記1.）および各取引の仕訳（下記2.）を丁寧に行うことで、解答を埋めていけるはずである。

1. X商品およびY商品の払出計算

(1) X商品

5/1 前月繰越 @6,000×1,000個=6,000,000	5/12 売上① @6,000×1,000個=6,000,000	} 6,640,000
5/4 仕入① @6,400×400個=2,560,000	@6,400×100個=640,000	
5/6 仕入② @6,400×200個=1,280,000	5/22 売上② @6,400×500個=3,200,000	} 5,180,000
5/16 仕入③ @6,600×900個=5,940,000	@6,600×300個=1,980,000	
	5/31 月末有高 @6,600×600個=3,960,000	

(2) Y商品

5/1 前月繰越 @5,000×800個=4,000,000	5/22 売上② @5,000×800個=4,000,000	} 6,620,000
5/4 仕入① @5,400×600個=3,240,000	@5,400×400個=2,160,000	
5/6 仕入返品 @5,400×△200個=△1,080,000	@4,600×100個=460,000	}
5/16 仕入③ @4,600×400個=1,840,000	5/23 売上返品 @4,600×△50個=△230,000	
	5/31 月末有高 @4,600×350個=1,610,000	

2. 一連の取引に係る会計処理

(1) 5月4日（仕入①）

(借) 商 品 5,800,000 (*1)	(貸) 前 払 金 1,200,000
	買 掛 金 4,600,000 (*2)

*1 X商品@6,400×400個+Y商品@5,400×600個=5,800,000

*2 5,800,000-手付金充当1,200,000=4,600,000

(2) 5月6日

① 仕入返品

(借) 買 掛 金 1,080,000 (*3)	(貸) 商 品 1,080,000
--------------------------	-------------------

*3 Y商品@5,400×200個=1,080,000

② 仕入②

(借) 商 品 1,280,000 (*4)	(貸) 買 掛 金 1,280,000
------------------------	---------------------

*4 X商品@6,400×200個=1,280,000

(3) 5月12日（売上①）

(借) 売 掛 金 13,200,000 (*5)	(貸) 売 上 13,200,000
(借) 売 上 原 価 6,640,000 (*6)	(貸) 商 品 6,640,000

*5 X商品@12,000×1,100個=13,200,000

*6 売上①に係るX商品の売上原価（上記1.(1)より）

(4) 5月13日（売上①の検収）

売上収益を認識する基準として出荷基準を採用しているため、販売先の検収に伴う会計処理は不要である。

仕 訳 不 要

(5) 5月16日(仕入③)

(借) 商	品	7,780,000 (*7)	(貸) 電 子 記 録 債 権	3,200,000
			買 掛 金	4,580,000 (*8)

*7 X商品@6,600×900個+Y商品@4,600×400個=7,780,000

*8 7,780,000-電子記録債権の譲渡記録3,200,000=4,580,000

(6) 5月18日(売掛金回収)

(借) 現	金	13,186,800	(貸) 売	掛	金	13,200,000
	売	上	割	引		13,200 (*9)

*9 5月12日売上に係る売掛金13,200,000×0.1%=13,200

(7) 5月22日(売上②)

(借) 売	掛	金	23,920,000 (*10)	(貸) 売	上	23,920,000	
(借) 売	上	原	価	11,800,000 (*11)	(貸) 商	品	11,800,000
(借) 発	送	費	32,000	(貸) 現	金	32,000	

*10 X商品@130ドル×800個×HR@105=10,920,000

→ 104,000ドル

Y商品@10,000×1,300個=13,000,000

10,920,000+13,000,000=23,920,000

*11 売上②に係るX商品の売上原価5,180,000(上記1.(1)より)

+売上②に係るY商品の売上原価6,620,000(上記1.(2)より)=11,800,000

(8) 5月23日

① 売上②の検収

仕	訳	不	要
---	---	---	---

② 売上返品

(借) 売	上	500,000 (*12)	(貸) 売	掛	金	500,000	
(借) 商	品	230,000 (*13)	(貸) 売	上	原	価	230,000

*12 Y商品@10,000×50個=500,000

*13 返品された商品の原価230,000。上記1.(2)より

(9) 5月25日(売掛金回収)

(借) 電 子 記 録 債 権	5,800,000	(貸) 売	掛	金	5,800,000
-----------------	-----------	-------	---	---	-----------

(10) 5月27日(為替予約)

(借) 売	掛	金	312,000 (*14)	(貸) 為	替	差	損	益	312,000
-------	---	---	---------------	-------	---	---	---	---	---------

*14 為替予約額:104,000ドル×FR@108=11,232,000

KY社に対する売掛金:10,920,000(上記(7)の*10より)

11,232,000-10,920,000=312,000

(11) 5月31日(月次決算)

(借) 棚	卸	減	耗	損	92,000 (*15)	(貸) 商	品	338,000
	商	品	評	価	損	246,000 (*16)		

*15 Y商品に係る棚卸減耗損:帳簿価額@4,600×(帳簿棚卸数量350個-実地棚卸数量330個)=92,000

*16 X商品に係る商品評価損:(帳簿価額@6,600-正味売却価額@6,300)×600個=180,000

Y商品に係る商品評価損:(帳簿価額@4,600-正味売却価額@4,400)×330個=66,000

180,000+66,000=246,000

(X商品の期末評価)

帳簿価額@6,600(*17)

正味売却価額@6,300

商品評価損 180,000	棚卸減耗損 —
次月繰越額 3,780,000	

実地棚卸数量600個 帳簿棚卸数量600個(*17)

*17 上記1.(1)より

(Y商品の期末評価)

帳簿価額@4,600(*18)

正味売却価額@4,400

商品評価損 66,000	棚卸減耗損 92,000
次月繰越額 1,452,000	

実地棚卸数量330個 帳簿棚卸数量350個(*18)

*18 上記1.(2)より

3. 当月の売上原価

X商品の払出原価 11,820,000 ← 売上①6,640,000+売上②5,180,000

Y商品の払出原価 6,390,000 ← 売上②6,620,000-売上返品230,000

棚卸減耗損 92,000

商品評価損 246,000

当月の売上原価 18,548,000

第3問 精算表作成 (単位：円) 目標時間：30分

未払費用の期首再振替が未処理となっている点（関連する消費税の修正も含む）のように、単なるパターン暗記では通じない内容も含まれていた。問題文を正確に読み取り、臨機応変に対応する練習をしておいていただきたい。

1. 外貨建て売掛金の期末換算

(借) 売掛金	120,000 (*1)	(貸) 為替差損益	120,000
---------	--------------	-----------	---------

- *1 $2,640,000 \div \text{輸出時の為替相場}@110 = 24,000 \text{ドル}$
 $24,000 \text{ドル} \times \text{決算時の為替相場}@115 = 2,760,000$
 $2,760,000 - 2,640,000 = 120,000 \text{ (差益)}$

2. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入	264,130 (*2)	(貸) 貸倒引当金	264,130
-------------	--------------	-----------	---------

- *2 設定額： $\{\text{受取手形 } 9,044,000 + \text{売掛金 } 10,178,000 + \text{換算による差益 } 120,000\} \times 1.5\% = 290,130$
繰入額： $290,130 - \text{決算整理前の貸倒引当金 } 26,000 = 264,130$

3. 売上原価の算定および期末商品の評価

(1) 売上原価の算定

(借) 仕入	2,602,000 (*3)	(貸) 繰越商品	2,602,000
(借) 繰越商品	2,480,000 (*4)	(貸) 仕入	2,480,000

- *3 期首商品棚卸高。決算整理前の繰越商品勘定より。
*4 期末商品の帳簿棚卸高

(2) 期末商品の評価

(借) 棚卸減耗損	60,000 (*5)	(貸) 繰越商品	97,680
(借) 商品評価損	37,680 (*6)		

- *5 帳簿棚卸高 $2,480,000 - \text{実地棚卸高 } 2,420,000 = 60,000$
*6 商品A： $(\text{取得原価}@600 - \text{正味売却価額}@520) \times \text{実地棚卸数量 } 96 \text{個} = 7,680$
商品B： $(\text{取得原価}@450 - \text{正味売却価額}@200) \times \text{実地棚卸数量 } 120 \text{個} = 30,000$
 $7,680 + 30,000 = 37,680$

4. 再振替仕訳（未処理）と費用の未払分

(1) 再振替仕訳

(借) 未払費用	74,400	(貸) 給料	70,000
		水道光熱費	4,000
		仮払消費税	400 (*7)

- *7 電力料の税込金額 $4,400 \times 0.1 / (1 + 0.1) = 400$

(2) 費用の未払分

(借) 給料	100,000	(貸) 未払費用	105,280
水道光熱費	4,800		
仮払消費税	480 (*8)		

- *8 電力料の税込金額 $5,280 \times 0.1 / (1 + 0.1) = 480$

5. 貯蔵品棚卸

(借) 貯蔵品	10,200	(貸) 通信費	10,200
---------	--------	---------	--------

6. 退職給付引当金の設定

(借) 退職給付費用	64,000	(貸) 退職給付引当金	64,000
------------	--------	-------------	--------

7. 受取利息および支払利息の見越し計上

(1) 定期預金に係る受取利息

(借) 未収収益	2,775 (*9)	(貸) 受取利息	2,775
----------	------------	----------	-------

*9 $1,000,000 \times 0.15\% \times 3 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月} = 375$
 $1,000,000 \times 0.36\% \times 8 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月} = 2,400$
 $375 + 2,400 = 2,775$

(2) 借入金に係る支払利息

(借) 支払利息	24,000 (*10)	(貸) 未払費用	24,000
----------	--------------	----------	--------

*10 $2,000,000 \times 4.8\% \times 3 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月} = 24,000$

8. 有形固定資産の減価償却

(借) 減価償却費	8,460	(貸) 建物減価償却累計額	6,960 (*11)
		備品減価償却累計額	1,500 (*12)

*11 月割計上している1ヶ月分の建物減価償却費：4,000
 $X9 \text{年} 1 \text{月} 1 \text{日}$ 取得した建物の減価償却費：取得原価 $296,000 \div 25 \text{年} \times 3 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月} = 2,960$
 $4,000 + 2,960 = 6,960$

*12 月割計上している1ヶ月分の備品減価償却費
 なお、1年当たりの計上額は次のようになる。
 $1 \div 10 \text{年} \times 200\% = \text{定率法償却率} 0.2$
 $116,500 - 1,500 \times 11 \text{ヶ月} = \text{期首における備品減価償却累計額} 100,000$
 $(\text{取得原価} 190,000 - 100,000) \times 0.2 = 18,000$

→ 毎月(3月含む)月割計上してきた償却額の合計(1,500×12ヶ月=18,000)と一致する。

9. 商標権の償却

(借) 商標権償却	40,000 (*13)	(貸) 商標権	40,000
-----------	--------------	---------	--------

*13 $280,000 \div \text{残存償却期間} 7 \text{年} = 40,000$

10. 消費税

(借) 仮受消費税	4,023,500	(貸) 仮払消費税	3,231,730 (*14)
		未払消費税	791,770 (*15)

*14 仮払消費税等 $3,231,650 - \text{電力料に係る期首の再振替} 400 + \text{電力料に係る期末の未払計上分} 480 = 3,231,730$

*15 仮受消費税等 $4,023,500 - 3,231,730 = 791,770$

11. 法人税等の計上

(借) 法人税等	1,560,000 (*16)	(貸) 仮払法人税等	431,400
		未払法人税等	1,128,600 (*17)

*16 課税所得 $5,200,000 \times 30\% = 1,560,000$

*17 $1,560,000 - \text{仮払法人税等} 431,400 = 1,128,600$

第4問 個別原価計算（単位：円） 目標時間：15分

製造指図書ごとの製造着手日や完成日、販売日などに注意する必要があった。

1. 製造間接費予定配賦率

年間予算額 18,900,000 ÷ 年間の正常直接作業時間 8,400 時間 = @2,250

2. 指図書別原価計算表

	#102	#103	#103-2	#104	#105	合計
月初仕掛品	180,000(*1)	—	—	—	—	180,000
直接材料費	450,000(*2)	967,000	92,000	883,000	120,000	2,512,000
直接労務費	120,000(*2)	168,000	48,000	360,000	24,000	720,000
製造間接費	225,000(*3)	315,000(*4)	90,000(*5)	675,000(*6)	45,000(*7)	1,350,000
小計	975,000	1,450,000	230,000	1,918,000	189,000	4,762,000
正常仕損費	—	<u>230,000</u> ← $\Delta 230,000$		—	—	—
製造原価	975,000	1,680,000	—	1,918,000	189,000	4,762,000
備考	2月中に完成、販売	2月中に完成、販売	#103の製造原価として処理	2月中に完成、2月末未販売	2月末仕掛中	—

- *1 1月分の投入原価
75,000 + 37,500 + 67,500(※) = 180,000
※ @2,250 × 30 時間 = 67,500
- *2 2月分の投入原価
- *3 2月分の製造間接費配賦額
@2,250 × 100 時間 = 225,000
- *4 @2,250 × 140 時間 = 315,000
- *5 @2,250 × 40 時間 = 90,000
- *6 @2,250 × 300 時間 = 675,000
- *7 @2,250 × 20 時間 = 45,000

#101 は 1 月（前月）中に完成していたため、その製造原価は月初製品棚卸高として扱う。#101 の製造原価は次のとおりである。

直接材料費 453,000 + 直接労務費 75,000 + 製造間接費 135,000(*8) = 663,000

*8 @2,250 × 60 時間 = 135,000

3. 仕掛品勘定

仕掛品勘定は、上記 2. の指図書別原価計算表の記入内容と対応している。

仕掛品							
2/1	前月繰越	180,000	(*1)	2/30	製品	4,573,000	(*2)
2/30	直接材料費	2,512,000		"	次月繰越	189,000	(*3)
"	直接労務費	720,000		/			
"	製造間接費	1,350,000					
			4,762,000	4,762,000			

- *1 #102 に対する 1 月分の投入原価
- *2 #102 の製造原価 975,000 + #103 の製造原価 1,680,000 + #104 の製造原価 1,918,000 = 4,573,000
- *3 #105 の製造原価

4. 原価差異（製造間接費配賦差異）の分析

問題文の資料からは、製造間接費について変動費と固定費の内訳などが判明しないため、公式法変動予算に基づく差異分析を行うことはできない。したがって、本問では、固定予算に基づく差異分析を行う必要があった。

(1) 予算差異

月間予算額 1,575,000(*1)－実際発生額 1,684,000＝△109,000（不利＝借方差異）

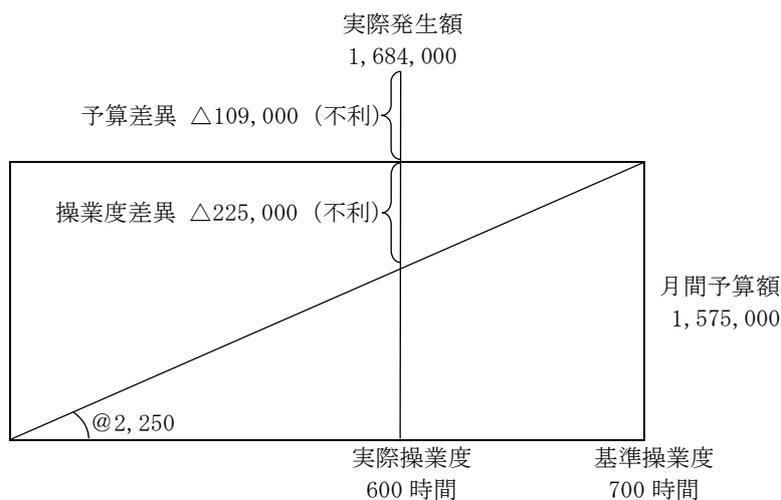
*1 年間予算額 18,900,000÷12ヶ月＝1,575,000

(2) 操業度差異

(実際操業度 600 時間(*2)－基準操業度 700 時間(*3))×予定配賦率@2,250＝△225,000（不利＝借方差異）

*2 100 時間(#102の2月分)+140 時間(#103)+40 時間(#103-2)+300 時間(#104)+20 時間(#105)
＝600 時間

*3 年間の正常直接作業時間 8,400 時間÷12ヶ月＝700 時間



5. 月次損益計算書

月次損益計算書		
売上高		7,640,000
売上原価		
月初製品棚卸高	663,000(*1)	
当月製品製造原価	4,573,000(*2)	
合 計	5,236,000	
月末製品棚卸高	1,918,000(*3)	
差 引	3,318,000	
原価差異	334,000(*4)	3,652,000
売上総利益		3,988,000
販売費及び一般管理費		1,670,000
営業利益		2,318,000

*1 #101の製造原価

*2 2月の完成品原価（上記3.より）

*3 #104の製造原価

*4 予算差異△109,000＋操業度差異△225,000＝△334,000（不利＝借方差異）

第5問 標準原価計算（単位：円） 目標時間：20分

標準原価差異の分析は、当月投入原価の部分について標準原価と実際原価との差異を計算する点に注意すること。

1. 原価標準（製品1単位当たりの標準原価）

直接材料費	標準価格2,400円/kg×標準消費量2kg＝	4,800	} 加工費は@4,560
直接労務費	標準賃率3,100円時間×標準直接作業時間0.6時間＝	1,860	
製造間接費	標準配賦率4,500円/時間×標準直接作業時間0.6時間＝	2,700	
		9,360	

2. 生産データ（括弧内は完成品換算量）

仕掛品	
月初仕掛品 400個 (240個)	完成品 5,500個
当月投入 5,700個 (5,560個)	月末仕掛品 600個 (300個)

3. 仕掛品勘定

仕掛品			
前月繰越	3,014,400(*1)	製	品 51,480,000(*2)
直接材料費	26,210,000	原	価 差 異 16,400(*3)
直接労務費	10,790,000	次	月 繰 越 4,248,000(*4)
製造間接費	15,730,000		
55,744,400		55,744,400	

*1 直接材料費@4,800×400個+加工費@4,560×240個=3,014,400

*2 @9,360×5,500個=51,480,000

*3 原価差異の総額。貸借差額または下記4.において分析した差異の合計として計算することもできる。

*4 直接材料費@4,800×600個+加工費@4,560×300個=4,248,000

4. 原価差異の分析

(1) 直接材料費差異

① 価格差異

標準価格@2,400×実際消費量10,900kg－実際直接材料費26,210,000＝△50,000（不利＝借方差異）

② 消費量差異

標準消費量：5,700個×2kg/個＝11,400kg

(11,400kg－10,900kg)×@2,400＝1,200,000（有利＝貸方差異）

実際直接材料費 26,210,000

	価格差異 △50,000（不利）	
標準価格@2,400		消費量差異 1,200,000 （有利）
	標準消費量 11,400 kg	実際消費量 10,900 kg

(2) 直接労務費差異

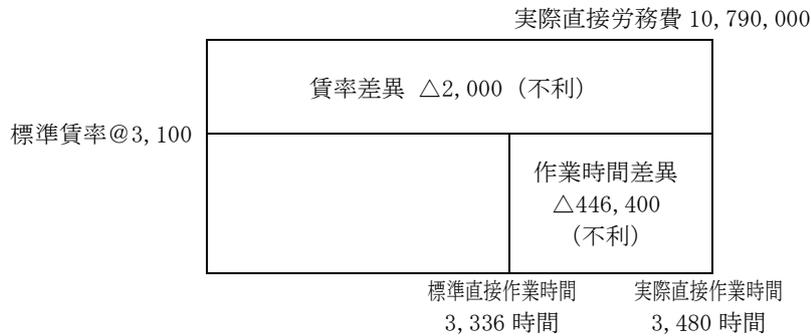
① 賃率差異

標準賃率@3,100×実際直接作業時間 3,480 時間－実際直接労務費 10,790,000＝△2,000 (不利＝借方差異)

② 作業時間差異

標準直接作業時間：5,560 個×0.6 時間/個＝3,336 時間

(3,336 時間－3,480 時間)×@3,100＝△446,400 (不利＝借方差異)



(3) 製造間接費差異

① 予算差異

変動費率@1,800(*1)×3,480 時間＋月間固定費予算額 9,450,000(*2)＝予算許容額 15,714,000

15,714,000－実際製造間接費 15,730,000＝△16,000 (不利＝借方差異)

*1 年間変動製造間接費予算 75,600,000÷年間正常直接作業時間 42,000 時間＝@1,800

*2 年間固定製造間接費予算 113,400,000÷12 ヶ月＝9,450,000

② 能率差異 (変動費部分からのみ計算)

(3,336 時間－3,480 時間)×変動費率@1,800＝△259,200 (不利＝借方差異)

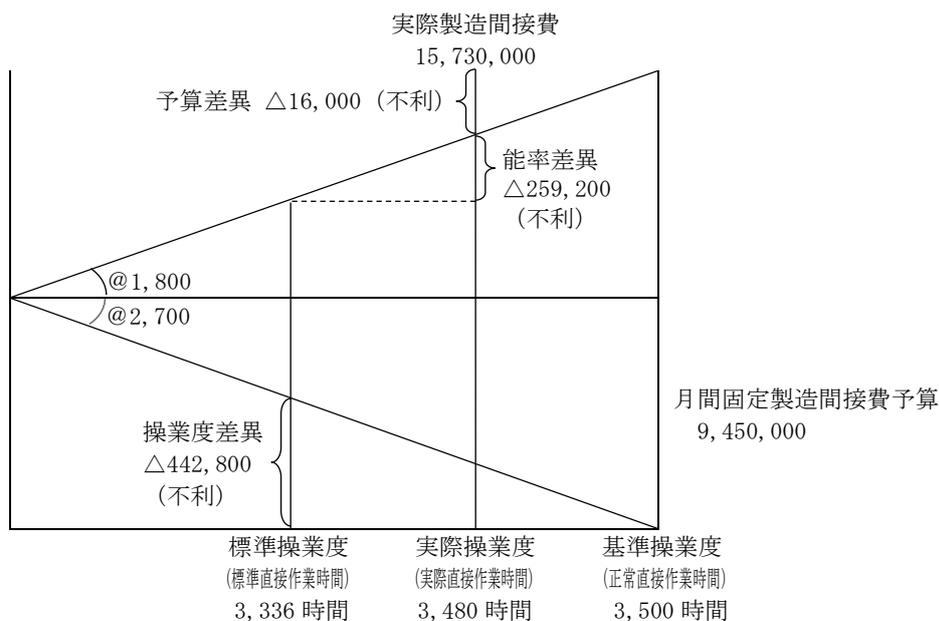
③ 操業度差異

(3,336 時間－基準操業度 3,500 時間(*3))×固定費率@2,700(*4)＝△442,800 (不利＝借方差異)

*3 42,000 時間÷12 ヶ月＝3,500 時間

*4 113,400,000÷42,000 時間＝@2,700

または、9,450,000÷3,500 時間＝@2,700



以上

(製作：公認会計士 山田和宗)